

るには、区民の幅広い意見の集約と支持の中で活動することが自ずと求められており、自治会や地域団体などの連携、区民会議の顧問でもある市会議員との接点を広げ意見交換や相互理解を深めることも課題であった。



パネルディスカッション
わがまちの未来像を共に語る会
青葉区選出全市会議員参加

平成十二年二月、青葉区制五周年記念事業として青葉区選出の七人の市会議員全員参加による話し合いを主催、青葉公会堂には五百人の区民が詰めかけた。区行政のあり方、市会のあり方、区の権限強化が課題として浮き彫りになった八十件を越す区民の意見は議会活動に生かすことを期待し全て市議に手渡した。運営にあたって不偏不党を貫き、中立的な区民会議だからこそ実現できた企画である。

区民会議初のホームページ

区民会議活動をより多くの区民に知ってもらうため十二年六月横浜市ではじめて、「青葉区区民会議ホームページ」を委員の手作りで開設した。市民との情報交流を飛躍的に促進、多様な世代と接触する可能性を広げ、区民会議運営の公開性の促進にも生かすことが期待される。

青葉区マスタープラン策定に参画

青葉区では、都市計画マスタープラン「青葉区プラン」の策定が始まり、青葉区の将来像を検討する青葉区民まちづくり会議に十六名もの区民会議委員が参加し常日頃の活動に裏打ちされた提言を生かす絶好の機会になった。青葉区まちづくり指針策定委員会にも区民会議代表が入り、区民会議が政策立案に参画する力と責任ある組織に成長した一つの証といえる。

第四期（平成十三～十四年度）

十四年四月、中田新市長が誕生、閉塞感を打開する大改革が始まる。「区民のつどい2002」では中田市長の掲げる横浜新時代の都市ビジョンについて総討議し、その結果を新市長への提案として提出

し市長からの回答も得た。

二つのプロジェクト

この期は、部会を越えた横断的な新たな課題に取り組むため二つのプロジェクトが設置された。

その一つは、ゆめはま新五か年計画」に対し政策提言を行う「二〇一〇プランフォロチーム」。青葉まちづくり会議に参画したメンバーが中心となり取り組んだ。中田市長の新政策「中期政策プラン」に対しても、民の力を発揮する企画協議会や、市と区の中間に位置する新たな行政体制を提案した。もう一つは「IT推進チーム」。

横浜市の電子行政に対し「ITを活用した住民本意の横浜市政実現のために」「IT特区構想」など先進的な提言を行った。更に「横浜市電子市役所推進懇談会」「メンバーに区民会議委員が選ばれ、電子市役所推進計画」の策定に参画した。その成果は中期政策プラン「区民との協働によるIT先進都市青葉区」に盛り込まれ、「あおばぱそこん横丁」の実現にもつながる。「青葉台魅力ある街づくり検討委員会」などにも区民会議委員が参画するようになり、区民会議の役割が重視されてきたといえる。

第五期（平成十五～十六年度）

「新時代行政プラン」「協働推進の基本指針」など中田新政策が次々と打出され、区への権限委譲が進み出した。青葉区政運営方針、青葉区新時代行政プランなど区独自の政策が打出される中で、区民会議の果すべき役割が一段と重くなったといえる。

市民活動の拠点である青葉区役所別館が閉鎖される問題を協働元年に相応しくない重要課題ととらえ、いち早く緊急提言を行い区行政に事態の打開を求めた。

「区民のつどい」も新しい試みに挑戦した。区民と多数の行政職員が肩を並べて課題を話し合う大規模なワークショップを実施、数百件もの意見が出された。九十人規模の多数の職員が参加した新しい話し合いは参画と協働の時代の市民との対話の場として大きな反響を呼んだ。

多様な区民の意識を把握し、どのように地域の総意をまとめていくのか、要望から提言へ、更に実行可能な協働型提言へと、青葉区民会議は参画と協働の時代の新しい区民会議のあり方を求め、模索を続けている。